

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	細胞機能と分子活性の多次元蛍光生体イメージング
領域代表者	松田 道行（京都大学・大学院生命科学研究科・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、蛍光バイオセンサーの開発者、高度な顕微鏡イメージング技術の開発者、そして多様な分野で生体イメージングを駆使して生命現象を解析している研究者が連携し、多次元蛍光生体イメージングというキーワードの基に研究組織を構成し、生命科学分野の飛躍的發展と更なるイメージング技術の革新を目指している。蛍光イメージング技術は、多彩で先進的な取組により日本が世界をリードするに至っているが、本研究領域はそれらを推進してきた実績ある研究者により構成されている。計画研究で扱う蛍光イメージング技術を集約し、蛍光バイオセンサーの配布から使用法の教育まで応用研究を有効に進めるため蛍光生体イメージングセンターを構築する点は大いに評価できる。また、他の分野への波及効果も大きく、積極的に若手研究者を育成するための工夫がなされている点も評価できる。本研究領域が多次元蛍光生体イメージングにかかる新たなバイオプローブの開発、高度な顕微鏡技術の開発、およびこれらを応用した生命現象の新発見を成し遂げ、新たな学術領域を打ち立てることで、日本を始め世界の生命科学研究が革新的に進歩することが期待できる。</p>